市整会会報

大阪公立大学整形外科開業医会

No.77　2026年7月30日発行

こたけ整形外科　小竹志郎
〒631-0003　奈良市中登美ヶ丘6-3-3
リコラス登美ヶ丘A棟3階
TEL0742-52-7779　FAX0742-52-7799

巻頭言

市整会　会長　　小竹　志郎（平成11年入局）

盛夏の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

大阪公立大学整形外科開業医会（市整会）の第11代会長を拝命し、早一年が経過いたしました。昨年の名称変更を経て、新体制としての歩みを一歩ずつ進めておりますが、我々を取り巻く医療環境は依然として厳しく、むしろその危うさは増しているように感じられてなりません。

かつて日本が誇った「国民皆保険制度」という、世界でも稀有な、あるいは歴史上の奇跡とも呼ぶべきシステムは、今や持続可能性の限界を露呈しつつあります。

さてここまで読まれてあれ何か内容がおかしいと思われた方、名称変更なんてしたか？市整会新体制、なんも進んどらんじゃないか？というお叱りはごもっともとして、実は上の文章 、市整会夏の会報の会長挨拶を1000字で、とAI（Google Gemini、無料）に書いてもらったその冒頭です。その後も私そっくりな文体で如何にも私の書きそうなことを見事に数分で書き上げてきました。おそらく市整会の新ホームページあたりを読み込んだか、それとも私が今まで市整会に書いてきた文面は全てGoogleのドライブというソフト上で書いているのでその下書き類を集めてきたか、なのだとは思います。その後の文章は紙面の関係上省きますが、今までの内容の見事なダイジェストになっておりました。ちなみにこの段落からは人間の私が書いておりますが、何せその遅いこと遅いこと。まず、しせいかい　を正しく市整会と変換するだけで数10クリックと約一分を要します。今まで何回、市整会って打ったと思ってんねん、ええかげん変換覚えろやと呟く間にGeminiくんならとっくに1000字完成です。もう圧倒的な能力差ですね。

コンピューター界の進化が我々の現在の暮らしに知らぬ間にどんどん変化を生んでいます。例えば患者さんが下調べしてきた知識や用語がかなり正鵠を得ており、思わずこっちの業界の方ですか、と聞いてしまうことが最近は多々あります。かつてはこりゃ素人な検索ワードで変な方へ行っちゃったなあ、という思い込みを是正するのに苦労したもんですが、今や症状を音声入力でスマホに話しかければかなりなところまでほぼ正しい知識がいつでも即座に無料で手に入る。そんな時代に我ら開業医は何をどう売っていくのか、考えても薄寒くなるばかりです

生活者としてもいろんな情報の入手力が全く変わってしまいました。例えば、このあたりで昼ごはん食べたいんだけど、と聞けば、好みや予算や時間に応じて相当的確なアドバイスがされるはずで、それは実は日本語が全くできなくてもほぼ関係ないので、近所の地元民の集うお好み焼き屋が白人だらけってなことにもなるし、おそらく自分

が非英語圏の海外に行ったとしても同じように旅できるのでしょう。そのあたりAIよりまずはスマホの普及の段階で世界の言語の垣根は相当消えたんですね。それなしには大阪京都奈良どこもインバウンドで溢れる世界はありえなかったし、反対に日本人が海外で暮らしたり、仕事したりというのも、かつての特派員的エリートや企業戦士ではない一般人にも可能になり、サッカーでも野球でも、日本人が世界で通じるのはもう当たり前の時代になりました。

ちなみにこの原稿を書いているのは2026年6月15日、W杯初戦でオランダと引き分けた直後です。この文が紙になり皆様の目に届く頃、日本が欧州と南米以外から初の優勝！の余韻に浸っていたらと思うのが決して絵空事でないくらい日本サッカーは強くなりました。もう日本相手に勝ち点３を計算できる国はどこにもない。もちろん現実の戦いの結果は実力だけでは如何ともしがたく、また次こそはとなっているとは思いますが。我々の世代だとオリンピックもW杯も毎年やってるんちゃうかと思うくらい４年などあっという間に経ちますので、ほんまにいつか歓喜の日を迎えられたらいいなと思えるほど日本のサッカーは進化をしましたね。

小生、サッカーは全く経験もなく、今時の高度な戦術やポジションなどは解説聞いても理解しかねるにわか代表ファンですが、サッカー漫画は大好きで、その知識で現代サッカーにようようついて行っております。中でも今世界的に売れている『ブルーロック』という作品がありまして、釜本以外日本人にはないと言われ続けた決定力を生み出すエゴから育てるべく少年たちを特殊環境に閉じ込めて育成するというまさにマンガですが、連載開始から８年、昨今の日本代表はもうオランダ相手にマンガのような芸術的シュートを決めてしまうレベルにあって、すっかり現実が追い抜いてしまいました。同じく『アオアシ』という作品では、渡欧しコミニュケーションとケガに泣いて若くして引退した天才選手（内田篤人あたりがモデル？）がジュニアの育成に以後の人生を賭ける名作で、これも今や日本のジュニア育成は世界のサッカー途上国のお手本と言われているようです。最後にフィジカルが違いすぎると言われ続けた日本人、これは前２作品と違いマイナーですが、2010年からの『フットボールネーション』。いつか日本がサッカー一流国になる日のために、業界であぶれた人材を身体操作という面から改革して草サッカーから天皇杯を取る、というまあストーリーはイマイチですが、なぜ日本が今やフィジカルでも競り合いのぶつかりから抜き去るスピードまで強豪国から恐れられるほどの進化を遂げたのかの合理を身体面から解析してくれるという整形外科医としては面白い内容で、うちは待合に並べてます。こちらももうとっくに日本選手は美しいサッカーで世界のファンを楽しませる一流国になって現実がその先へ行きました。

さてAIによる名文に喧嘩を売るべくあえて脱線し、砕けた内容をと狙って書いてきたわけですが、希少な若者がジャンルを選択と集中し、その分野で世界の天辺へ駆け上ってくれているなら国としては上々と言っていいのかもしれません。

一方で我が業界はといえば、すでに世界一の高齢化とそれを成し遂げた医療体制は世界の頂点を超えて突き進み、その当たり前の恩恵が崩れようとする今後どこへ収束していくのやら五里霧中で、もう陰謀でも妄想でもいいから誰かこの先の展望を見せてくれ、という状況は、100年かかろうともしっかりと世界のてっぺんを目指した日本サッカー協会の慧眼と正しい努力の結果との差異は如何ともしがたく、その中で我々アナログ旧人類は何に貢献できるのか、答えは全く風に吹かれるままに何も聞こえてこないまま配信動画で代表の健闘を見て過ごす夏を諦めてにならぬよう自らを戒めつつ、実は公大勤務医会から8月22日に30分ではありますが講演をという依頼があり、『開業医の現実から見る整形外科医のこれから』と題して同門の今後に役立つ何かを伝えられたらと構想中です。そもそも教授以下の大学組と勤務医会、開業医会が危機感を共有して変化を模索するなどかつてはあり得ない景色ですが、それくらい我々の業界の未来は危ういのだと肝に銘じ何らかの展開を生み出せたらと思います。もしお時間おありでしたら同門会MLから案内も来ると思いますので応援がてらご来場いただけたらと思います。

このあたりで私の奮闘はAIにはできない何らかの価値を生む文章を生み出せたのか心もとないまま、今回は締めさせていただきます。

就任のご挨拶

大阪公立大学医学部整形外科学教室同門会会長　　増田　博（昭和57年入局）



昭和57年（1982年）入局の増田博です。このたび、大阪公立大学医学部整形外科学教室同門会の会長を拝命いたしました。歴史と伝統のある同門会の運営に携わる機会をいただき、大変光栄に感じるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

歴代会長のお名前を拝見しますと、前任の佐々木先生、北野先生、長田先生、吉中先生をはじめ、それ以前には歴代教授が会長職を務められ、同門会の発展に大きく貢献されてこられました。その輝かしい歴史と実績を思うとき、私にその重責が務まるのかと思いますが、会員の皆様のお力添えをいただきながら職責を果たしてまいりたいと考えています。

まずは、日頃より開業医として仕事をされておられる諸先生方に、心より感謝申し上げます。先生方は地域医療の最前線で日々診療にあたられる一方、同門会活動や教室の発展にも多大なご協力をいただいております。この場をお借りして、深く敬意を表したいと思います。

私たちの教室は、長い歴史の中で多くの優れた整形外科医を輩出してまいりました。その発展を支えてきたのは大学や関連病院だけではありません。地域に根ざした診療を続けておられる開業医の先生方の存在もまた、教室にとってかけがえのない財産です。患者さんの紹介や逆紹介、若手医師への助言、学術活動への協力など、さまざまな場面で開業医会の先生方が果たしてこられた役割は極めて大きなものがあります。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。少子高齢化の進展に伴い、整形外科医が担う役割はますます重要になっています。一方で、医師の働き方改革や地域医療構想など、新たな課題への対応も求められています。このような時代だからこそ、大学病院、関連病院、そして地域の診療所がそれぞれの役割を果たしながら、より密接に連携していくことが重要であると考えています。

私は、同門会は単なる親睦団体や同窓会ではないと思っています。同じ教室で学んだ仲間が互いに支え合い、知識や経験を共有しながら地域医療と教室の発展に貢献する組織であるべきだと考えています。

今後は寺井教授、勤務医会の乾会長、開業医会の小竹会長をはじめ、多くの先生方と連携しながら、より実りある同門会活動を進めてまいりたいと思います。

特に重要な課題の一つが若手整形外科医の育成です。教室の将来は若い先生方にかかっています。大学や関連病院で指導にあたっていただいている先生方には大きなご負担をおかけしていますが、人材育成は教室の未来への投資です。開業医の先生方にも、長年の臨床経験を若い世代へ伝えていただき、次世代の整形外科医の成長を支えていただければ幸いです。

勤務医と開業医との連携強化も重要なテーマです。患者紹介や逆紹介だけでなく、同門という共通の基盤があるからこそ、病院の垣根を越えて協力できる関係を築いていきたいと思います。近年では診療所の承継問題が大きな課題となっていま

す。後継者を探しておられる先生と、将来的に開業を考えている若い先生を結びつける仕組みづくりは、同門会だからこそできる支援の一つではないかと考えています。また、勤務医の先生方が退職後やセカンドキャリアとして地域医療に参加できる環境づくりも重要です。

さらに、開業医の先生方が急病や家庭の事情などで診療を継続できなくなった際に、同門会のネットワークを活用して支援できる体制づくりを早急に確立したいと考えています。互いに助け合うことができる同門会であれば、会員にとってより大きな安心につながると考えています。

そして何よりも重要なのは、教室そのものの発展です。優秀な若手医師に選ばれる魅力ある医局をつくり、新入局員を増やしていくことが必要です。教室の規模と活力は、教育、研究、診療のすべてに大きく影響します。同門会としても医局の発展を全面的に支援していきたいと考えています。

最後にして最大の願いは、大阪公立大学整形外科学教室から多くの教授や指導者が輩出されることです。そして将来、「日本」を冠する大規模学会を主催し、日本の整形外科を牽引する教室として発展していくことです。その目標に向かって、同門会が一丸となり寺井教授を支え、教室の発展に貢献していきたいと思います。

大阪市立大学と大阪府立大学の統合によって誕生した大阪公立大学は、新たな歴史を刻みながら発展を続けています。同門会もまた、新しい時代にふさわしい組織へと進化していかなければなりません。伝統を大切にしながらも変化を恐れず、世代を超えて会員がつながり、互いに支え合える魅力ある同門会を目指してまいります。

私自身も開業医の一人として、勤務医の先生方と開業医の先生方をつなぐ架け橋となれるよう微力を尽くす所存です。今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心より祈念し、会長就任のご挨拶とさせていただきます。



令和７年度　市整会　総会

森川献志漢（平成８年入局）

日　時：2026年５月９日（土）
　学術講演会16：00～
　懇親会19：00～（参加費　8,000円）（14Ｆ酒房「龍宮（TATSUMIYA)」
場　所：シティプラザ大阪　４階「眺」
　　〒540-0029　大阪府大阪市中央区本町橋２－31　TEL：06-6947-7702

　尚、懇親会は事前予約制ですので、下記の調整さんから入力を宜しくお願い致します。
　https://chouseisan.com/s?h=493d0c4d402d4fe3872b400c8d591535

出席者（23名）
小竹志郎、石崎嘉昭、鳴嶋眞人、堀澤欣弘、秋野一男、斧出安弘、柳井尚浩、阪本博史、西澤　徹、竹中稔幸、大川得太郎、伊藤智康、岩城啓好、恵木　丈、日下昌浩、森川献志漢、祷　史明、越宗　勝、妻鹿良平、臼井俊方、寺岡貴徳、北野利夫、金城養典

欠席者（37名）
委任状：69通

　開始に際し、冒頭での小竹会長から会存続の議論をし改革をしていかなければ、今後医療を取り巻く環境が変わっていく中で追い込まれぬように市整会の存在意義を考えましょうとの挨拶が有りました。

議　題

報告事項
　１、会員の動向について（森川）
　２、令和７年度事業報告（森川）
　３、令和７年度会計報告（伊藤）
　４、その他の報告事項

協議事項
　１、令和８年度事業計画（森川）
　２、令和８年度予算案（伊藤）
　３、その他の協議事項

総会の成立について（森川）
（会員193名、参加者21人、委任状37人、名誉会員69名…総会成立）

報告事項

1、会員の動向について（森川）

1）名誉会員の御報告（16名）

清水　孝修（昭和54年入局）（生年月日：昭和30年１月11日）
堀澤　欣弘（昭和54年入局）（生年月日：昭和30年３月２日）
中村　　薫（昭和55年入局）（生年月日：昭和30年12月15日）
田中　直史（昭和56年入局）（生年月日：昭和30年７月25日）
森井　孝和（昭和57年入局）（生年月日：昭和30年１月４日）
辻　　康之（昭和59年入局）（生年月日：昭和30年５月５日）
阪本　博史（昭和59年入局）（生年月日：昭和30年４月29日）
元田　忠伸（昭和59年入局）（生年月日：昭和30年５月28日）
川満　政之（昭和60年入局）（生年月日：昭和30年４月10日）
寺元　　隆（昭和61年入局）（生年月日：昭和30年３月23日）
八木　宏之（昭和59年入局）（生年月日：昭和29年４月24日）
林　　卓夫（昭和55年入局）（生年月日：昭和31年３月10日）
島田比呂志（昭和56年入局）（生年月日：昭和31年２月２日）
斧出　安弘（昭和56年入局）（生年月日：昭和31年１月29日）
辰巳　一郎（昭和59年入局）（生年月日：昭和31年１月27日）
寺川　文彦（昭和57年入局）（生年月日：昭和31年２月９日）

2）死亡退会者の御報告（４名）

前野　岳敏先生（昭和41年入会）、令和７年５月16日にご逝去
許　　国広先生（昭和44年入会）、令和７年５月２日にご逝去
吉中　正好先生（昭和36年入会）、令和７年10月15日にご逝去
佐竹　兼爾先生（昭和46年入会）、令和７年11月２日にご逝去

3）退会（０名）

4）閉院（６名）

楯　憲一郎（昭和52年入局）令和８年３月31日閉院
（医）楯整形外科　〒595-0062　泉大津市田中町3-17
電話：0725-33-8625　Fax：0725-33-8655
御自宅　〒591-0143　堺市南区新槍尾台4-24-16　電話：072-299-8886

猪瀬　正美（昭和48年入局）閉院
（医）猪瀬整形外科クリニック　〒565-0851　吹田市千里山西3-41-14　電話：06-6330-7871

飯田伊佐男（昭和54年入局）令和７年３月末で閉院
飯田整形外科　〒663-8106　西宮市大屋町7-14　電話：0798-66-1672　Fax：0798-66-1672
自宅電話：0798-67-6303

宮脇　裕二（昭和55年入局）３月末で継承
みやわき整形外科クリニック　〒663-8174　西宮市甲子園４番町3-7
電話：0798-41-7200　Fax：0798-41-7205

辰巳　一郎（昭和59年入局）昨年秋に閉院されました。
たつみ整形外科　〒555-0001　大阪市西淀川区佃3-19-99
電話：06-6477-2811　Fax：06-6477-2810　御自宅：0797-74-5696

島田比呂志（昭和56年入局）
島田整形外科　〒590-0103　堺市南区深阪南115
電話：072-236-9995　Fax：072-230-2622

5）住所変更（２名）
廣田　龍二（昭和41年）閉院に伴い住所変更
大阪市中央区南船場　→　〒615-6871　京都市右京区西京極東衣平町125

倉田　順弘（昭和56年）閉院に伴い住所変更
〒653-0041　神戸市長田区久保町10-2-13　電話：078-761-1392、080-4642-9436

6）新規入会（２名）
金城　養典（平成12年入局）（生年月日：1975年11月４日）
かねしろ整形外科・手の外科クリニック（令和７年８月１日開院）
〒550-0012　大阪府大阪市西区立売堀６丁目3-8　フレスポ阿波座２F
電話：06-6541-0123　Fax：06-6541-0124　https://kaneshiro.clinic
自宅：〒543-0043大阪市天王寺区勝山1-7-28　携帯：090-8530-3075
Eメール：yasunorikaneshiro@gmail.com

辻尾　唯雄（平成７年入局）（生年月日：1969年７月19日）1995年　高知医科大学卒
つじお整形外科　〒590-0108　堺市南区深阪南115（令和８年４月６日開院）
電話：072-236-9995　Fax：072-230-2622
自宅：〒558-0004　大阪市住吉区長居東3-19-14
電話：06-6654-8039　携帯：090-3038-5901　Eメール：tadao.tsujio@gmail.com

2、令和７年度事業報告（森川）
R7.04.12（土）学術講演会　本町オービックホール２階　共催：久光製薬　15：50～
参加者：29名、会員：20名、勤務医：４名、その他３名、演者：２名
講演１：「腰痛症に対する全身作用型の貼付剤の使い方を知る」　座長　竹中稔幸先生
演者　岡山大学学術研究院医歯薬学域　運動器スポーツ医学講座講師
岡山大学病院運動器疼痛センター副センター長　鉄永倫子先生
講演２：「地域包括ケアから考える骨折対策」　座長　祷　史明先生
演者　産業医科大学　公衆衛生学講座教授　松田晋哉先生
病院紹介　十三市民病院　坂和明先生

R7.05.17（土）理事会（講演会なし、理事会のみ）
会員189、理事30名中、参加者13人、委任状５人、…理事会成立
「こんび」電話：06-6770-5305　大阪府大阪市天王寺区堀越町13-15　18：00～21：00

R7.05.31（土）総会（講演会なし（科研製薬さんの共催なし）、総会のみの自前開催のみ）
会員192名、参加者20人、委任状67人、名誉会員50名…総会成立
総会：15：30～16：30
ハートンホテル北梅田　貸会議室（２：30～３時間で予約）
懇親会：調整さんで先着20名

https://chouseisan.com/s?h=45b4a6b02907457ab3001122e10cca0f
Liben（リベン）午後５時から７時半　会費：１万円

R7.06.14（土）学術講演会　共催：旭化成　参加者：51名
講演１：「小児整形外科疾患の診療連携　―診療のコツと超音波検査の活用―」
演者　大阪公立大学医学部医学研究科　整形外科学教室　講師　新谷康介先生
講演２：「思春期特発性側弯症治療の最前線　―側弯症センターにおける治療アプローチ―」
演者　大阪市立総合医療センター　側弯症センター　センター長　松村　昭先生
講演３：「骨形成促進薬に関する最新の知見
―テリパラチド、ロモソズマブ、アバロパラチドの特徴について―」
演者　名戸ヶ谷病院　整形外科・顧問　川口　浩先生

R7.06.22（日）スケルトンゴルフ　天野山カントリークラブ
参加者：９組　35名

R7.11.08（土）学術講演会
TKPガーデンシティ大阪淀屋橋『バンケット19A』15：25～　協賛　第一三共
講演１：「整形外科医が知っておくべき脊椎関節炎の病態と治療法
～関節リウマチとの違いを含めて～」　座長　万代幸司先生
演者　大阪公立大　高齢者運動器変性疾患制御講座　特任准教授学　岡野匡志先生
講演２：「医工連携による手疾患スクリーニング法の開発と神経障害性疼痛治療」
座長　恵木　丈先生
演者　東京科学大学　医療イノベーション機構　医療デザイン室　教授　藤田浩二先生

R7.11.09（日）家族会　京都太秦映画村　しげつでお食事
会員13名、ご家族大人12名、お子様１人（合計26名）

R7.11.30（日）同門杯ゴルフコンペ　天野山カントリークラブ
参加：７組　25名

R8.01.24（土）市整会　新年会（リッツカールトン大阪）
出席者71名（会員　31名）

３、その他の報告事項
１）今後、市整会会員の承継が進むと考える。医局と連携して同門会会員間での承継が進むよう、組織を立ち上げる必要がある。M&A業者による多額のピンハネを阻止するため理事会で検討したところ、OCOAの宮田先生が奈良県立医大との間で、システム作りを現在進行中である意見も頂戴し、今すぐではなく市整会としても検討項目とさせて頂いた。

２）市整会HPがリニューアルいたしました。
市整会HPが借りていた、レンタルサーバー会社が業績不振で飛んだため閲覧不可になっておりましたが、斧出先生のご尽力で復旧いたしました。
新しいホームページのURLは、https://siseikai.jpです。
会員専用の：パスワード「siseikai1972」と半角で入力

市整会メンバーメールも新しくなりました。member@siseikai.jp

3）昨年までは6月の学術講演会で、協賛の旭化成ですが、今後は継続不可とのことです。

4）ゴルフコンペにおいて担当を天野先生から久保卓也先生に交代されました。

5）継承の問題
寺井先生も開業―継承の問題をご存じですので、そのような継承問題、コンサル的なことをしている人と会いました。一度、市整会会員、開業医のリアルを知りたい勤務医、寺井先生を交えて、公大同門会での継承を具体化する、スタートアップミーティングについて提案したいと思います。

6）新理事として4名（飯田高広先生、小阪寿憲先生、前野考史先生、久保卓也先生）の先生方が就任されました。

7）増田先生の同門会会長就任後、各関連病院の名簿に勤務医別の専門疾患、集患希望疾患を記載して病診連携の強化をお願いしたい。

8）その他の報告事項は有りませんでした。

4、令和7年度会計報告（伊藤）

協議事項

1、令和8年度事業計画（森川）

R8.04.24（金）春季理事会　Zoomで20時～
参加17名、委任状7通

R8.05.09（土）総会　15：00～　シティプラザ大阪　4階「眺」
特別講演Ⅰ：『手外科領域における低侵襲治療の取り組み』　座長　小竹志郎先生
演者　社会医療法人松本快生会西奈良中央病院　整形外科部長　鈴木大介先生
特別講演Ⅱ：『運動器エコー！　ここまで進んだハムストリング肉離れ治療』　座長　岩城啓好先生
演者　医療法人誠幸会わだ整形外科クリニック　院長　和田　誠先生
ミニレクチャー：座長　祷　史明先生
演者　かねしろ整形外科・手の外科クリニック　院長　金城養典先生
病院紹介　中之島いわき整形外科　院長　祷　史明先生
大阪市立総合医療センター　整形外科　部長　松浦正典先生

R8.07.12（日）スケルトンゴルフ　天野山カントリークラブ

R8.11.08（日）家族会　詳細は未決定ですが奈良方面に先着順の25名で開催委予定
正倉院展の入場抽選で訪問地、日時が変わると思います

R8.11.14（土）市整会@北浜フォーラム（アステラス＋アムジェン）（久光）
演者　宗圓先生　玉井先生（大学）
会場での情報交換会アリ

R8.11.28（土）OCOAの50周年記念式典（リッツカールトン）に山中教授を招待し開催されるとの事です。

R8.11.29（日）同門杯ゴルフコンペ　天野山カントリークラブ

2、令和８年度予算案（伊藤）

3、その他の協議事項

1）55周年記念は新年会併催で記念誌無しで検討する。
令和10年の新年会で開催予定です。

2）会報をどうするか？
宮脇先生が病院を継承され開業医でなくなるにつれて、広報担当理事から退かれます。後任の人事 ⇒ 経費の問題や時代背景もあり、ホームページを活用し会報を掲載するが、記事集めが一番の問題点ですが、会長の記事を依頼したり、その時々で古希を迎えられた先生や新入会の先生に記事を依頼する意見で天野先生が担って下さいます。その報告の後、天野先生から紙媒体での会報を残してほしいとの先輩方の意見が有った事の報告の後、紙媒体での承認を総会で承認されました。

3）日本医師会生涯教育制度を講演会の際に継続するか？
これまでは、無料だったものが、市整会単独開催16,500円、メーカー共催で33,000円掛かるようになりますが、継続しますでしょうか。
⇒共催メーカーさんが支払って下さる分は継続（学術の恵木先生から講演会の都度メーカーに打診して頂ける事となりました）と理事会で承認されました。

4）その他の協議事項

市整会役員

会　長	小竹　志郎				
副会長	馬野　隆信	竹中　稔幸	恵木　　丈		
会　計	伊藤　智康				
総　務	森川献志漢				
名誉会長	南平　克積	鳴嶋　眞人	天野　祐一	西澤　　徹	
顧　問	黒田　晃司	楯　憲一郎	安田　浩成		
議　長	鳴嶋　眞人				
副議長	斧出　安弘				
監　事	増田　　博	柳井　尚浩			
理　事	石崎　嘉昭	鳴嶋　眞人	斧出　安弘	田中　直史	天野　祐一
	増田　　博	馬野　隆信	柴田　和弥	阪本　博史	高山　　優
	西澤　　徹	竹中　稔幸	大川得太郎	伊藤　智康	恵木　　丈
	日下　昌浩	木下　裕介	鱧永　　浩	岩城　啓好	姜　　良勲
	祷　　史明	森川献志漢	越宗　　勝	水沢　慶一	小竹　志郎
	前野　考史	飯田　高広	小阪　寿憲	久保　卓也	

役員職務分掌

福利厚生担当副会長	馬野　隆信			
福利厚生担当理事	天野　祐一	田中　直史	高山　　優	大川得太郎
	木下　裕介			
会計	伊藤　智康			
学術並びに健保介護診療担当副会長	恵木　　丈			
学術担当理事	竹中　稔幸	岩城　啓好	恵木　　丈	祷　　史明
	水沢　慶一			
健保介護診療担当理事	馬野　隆信	大川得太郎	日下　昌浩	
総務・広報　並びにIT委員会　担当理事副会長			竹中　稔幸	
総務担当理事	森川献志漢	阪本　博史	日下　昌浩	
広報担当理事	天野　祐一	鱧永　　浩	越宗　　勝	木下　裕介
	姜　　良勲			

令和７年度収支計算書・令和８年度予算書

伊藤　智康（昭和63年入局）

令和7年度収支計算書

自　令和7年4月1日
至　令和8年3月31日

1. 収入の部

科目	令和7年度予算額	令和7年度決算額	増減
第1款　会費収入			
第1項　本会費	¥4,830,000	¥4,515,000	¥-315,000
第2項　特別会費	¥0	¥0	¥0
小計	¥4,830,000	¥4,515,000	¥-315,000
第2款　雑収入			
第1項　雑収入(預金利息、紹介状代)	¥100	¥15,665	¥15,565
第2項　寄付金収入	¥1,000,000	¥1,000,000	¥0
第3項　その他の収入	¥400,000	¥303,000	¥-97,000
小計	¥1,400,100	¥1,318,665	¥-81,435
当期収入合計	**¥6,230,100**	**¥5,833,665**	¥-396,435
繰越金	¥7,526,074	¥7,526,074	¥0
合計	**¥13,756,174**	**¥13,359,739**	¥-396,435

2. 支出の部

科目	令和7年度予算額	令和7年度決算額	増減
第1款　事務費			
第1項　通信費	¥100,000	¥152,350	¥52,350
第2項　事務用品費	¥10,000	¥0	¥-10,000
第3項　渉外費	¥100,000	¥0	¥-100,000
第4項　事務弁償費	¥40,000	¥40,000	¥0
小計	¥250,000	¥192,350	¥-57,650
第2款　各部活動費			
第1項　総務部	¥1,250,000	¥1,629,280	¥379,280
第2項　学術部	¥1,100,000	¥804,562	¥-295,438
第3項　福利厚生部	¥750,000	¥582,060	¥-167,940
第4項　広報部	¥450,000	¥476,300	¥26,300
第5項　税務部	¥10,000	¥0	¥-10,000
第6項　雑費	¥10,000	¥10,560	¥560
第7項　学術積立金	¥200,000	¥200,000	¥0
第8項　55周年記念事業費積立金	¥1,000,000	¥1,000,000	¥0
小計	¥4,770,000	¥4,702,762	¥-67,238
第3款　慶弔費	¥200,000	¥35,000	¥-165,000
第4款　予備費	¥8,536,174	¥0	
当期支出合計	**¥13,756,174**	**¥4,930,112**	
次期繰越金		**¥8,429,627**	
合計	**¥13,756,174**	**¥13,359,739**	¥-396,435

内　訳

１．収入の部

年会費収入	150/189名（閉院30名、未納9名）他 ※1 ※1 閉院に伴い前期分のみ 1名（¥15,000×1） ¥30,000×(189-30-9)＋¥15,000×1	＝	¥4,515,000
利息	医師信用組合		¥12,029
	三井住友銀行		¥3,636
寄付金収入	故 長田 明先生の奥様より		¥1,000,000
その他の収入	学術講演会等参加費等（4/12 久光、6/14 旭化成、11/8 第一三共）		¥302,000
	学術講演会（4/12）後の情報交換会の会費余り		¥1,000

２．支出の部

事務費

第1項　通信費	FAXネット・ネットバンキング･郵送代等	¥152,350
第2項　事務用品費		¥0
第3項　　渉外費		¥0
第4項　事務弁償費	総務	¥20,000
	会計	¥20,000

各部活動費

第1項　総務部	会議費（総会、理事会）	¥181,810
	新年会　ザ･リッツ･カールトン（会場費¥1,302,735ー会費¥711,000）	¥591,735
	新年会バンド出演料	¥250,000
	新年会カメラマン代（交通費含）	¥31,000
	新年会招待者お車代	¥10,000
	情報交換会 2回（6/14、11/8）	¥106,425
	SUZURI album（旧30days）年間使用料	¥3,960
	会員名簿作成費	¥64,350
	ホームページ制作費	¥390,000
第2項　学術部	日本リウマチ学会事務費	¥4,562
	大学医局出張費援助金	¥800,000
第3項　福利厚生部	家族会	¥332,060
	ゴルフ景品代等（スケルトンコンペ¥13,909、公整会杯コンペ¥42,260）	¥56,599
	ゴルフ繰越金	¥193,401
第4項　広報部	会報印刷代等	¥476,300
第6項　雑費	振込手数料等	¥8,140
	残高証明書手数料	¥2,420

慶弔費

	祝花、供花	¥35,000

令和8年度予算書

自　令和8年4月1日

至　令和9年3月31日

1. 収入の部

科目	令和7年度予算額	令和8年度予算額	増減
第1款　会費収入			
第1項　本会費	¥4,830,000	¥4,710,000	¥-120,000
第2項　特別会費	¥0	¥0	¥0
小計	¥4,830,000	¥4,710,000	¥-120,000
第2款　雑収入			
第1項　雑収入(預金利息、紹介状代)	¥100	¥100	¥0
第2項　寄付金収入	¥1,000,000	¥0	¥-1,000,000
第3項　その他の収入	¥400,000	¥300,000	¥-100,000
小計	¥1,400,100	¥300,100	¥-1,100,000
当期収入合計	**¥6,230,100**	**¥5,010,100**	¥-1,220,000
前期繰越金	¥7,526,074	¥8,429,627	¥903,553
合計	**¥13,756,174**	**¥13,439,727**	¥-316,447

2. 支出の部

科目	令和7年度予算額	令和8年度予算額	増減
第1款　事務費			
第1項　通信費	¥100,000	¥100,000	¥0
第2項　事務用品費	¥10,000	¥10,000	¥0
第3項　渉外費	¥100,000	¥100,000	¥0
第4項　事務弁償費	¥40,000	¥40,000	¥0
小計	¥250,000	¥250,000	¥0
第2款　各部活動費			¥0
第1項　総務部	¥1,250,000	¥1,450,000	¥200,000
第2項　学術部	¥1,100,000	¥900,000	¥-200,000
第3項　福利厚生部	¥750,000	¥750,000	¥0
第4項　広報部	¥450,000	¥450,000	¥0
第5項　税務部	¥10,000	¥10,000	¥0
第6項　雑費	¥10,000	¥10,000	¥0
第7項　学術積立金	¥200,000	¥100,000	¥-100,000
第8項　55周年記念事業費積立金	¥1,000,000	¥1,000,000	¥0
小計	¥4,770,000	¥4,670,000	¥-100,000
第3款　慶弔費	¥200,000	¥100,000	¥-100,000
当期支出(第1～3款)合計	**¥5,220,000**	**¥5,020,000**	¥-200,000
第4款　予備費	**¥8,536,174**	**¥8,419,727**	¥-116,447
合計	**¥13,756,174**	**¥13,439,727**	¥-316,447

市整会資産(令和8年3月31日現在)

		R7.3.31時点	入金	利息	R8.3.31現在	増減	
医師信用組合普通	普通　医師信用組合	¥6,128,658		¥12,029	¥5,313,487	¥-815,171	**一般会計**
学術基金(医師信スーパー定期・2059738)	定期　医師信用組合	¥1,042,566		¥1,657	¥1,044,223	¥1,657	
学術基金(医師信スーパー定期・2059746)	定期　医師信用組合	¥1,163,141		¥1,849	¥1,164,990	¥1,849	
小計		**¥8,334,365**			**¥7,522,700**	¥-811,665	
三井住友銀行(市整会)	普通　三井住友銀行	¥1,089,184		¥3,646	¥2,013,516	¥924,332	**一般会計**
学術積立金	定期　三井住友銀行	¥7,013,012	¥200,000	¥12,148	¥7,225,160	¥212,148	
55周年積立金	定期　三井住友銀行	¥2,000,378	¥1,000,000	¥3,465	¥3,003,843	¥1,003,465	
事業基金(30、35, 40周年残金)	定期　三井住友銀行	¥4,067,668		¥6,444	¥4,074,112	¥6,444	
小計		**¥14,170,242**			**¥16,316,631**	¥2,146,389	
渉外準備金	定期　三井住友銀行	**¥12,686,291**		¥20,096	**¥12,706,387**	¥12,686,291	
現金		**¥308,232**			**¥1,102,624**	¥794,392	**一般会計**
合計		**¥35,499,130**			**¥37,648,342**	¥2,149,212	**¥8,429,627** **(一般会計合計)**

会計監査報告書

令和７年度市整会（大阪市大整形外科開業医会）の歳入歳出につき、慎重監査いたしましたところ、適正に処理・管理されたことを認めます。

令和　８　年　５　月　６　日

監事　柳井尚浩　印

令和　８　年　４　月　２８　日

監事　増田博　印

家族会のお知らせ

福利厚生担当　大川得太郎（昭和62年入局）

正倉院展

日時：令和８年11月８日(日)

私が、中学生の頃、歴史で最も気に入っていたのが、奈良時代です。その当時はシルクロードの特集にあふれ、特に正倉院という宝物庫があるのを知り、いつかその宝物を観てみたいと思っていました。正倉院は756年、聖武天皇の遺愛品を、皇后の光明皇后が東大寺の大仏に献納したことが正倉院宝物の始まりです。以後、仏教儀式で使われた品々や文書なども加わり、現在では約9,000件の宝物が伝わっています。 約1300年前の宝物が良好な状態で残っているのにロマンを感じました。以前より、正倉院展が、奈良国立博物館で開催されているのは知っておりました。しかし、毎年僅か２週間半の開催で、予約をしないと閲覧できない、しかも日曜日は、僅か２日のみです。今回は、私の興味も加わり、奈良国立博物館の正倉院展の観覧を市整会家族会で行いたいと思います。予約が必要で、総数26名に絞ります。

お食事は、ふふ奈良にある日本料理滴翠（てきすい）での会席料理を味わっていただきます。お食事後は、奈良県最大級のお土産物産「なら和み館」で、お買い物を堪能ください。家族会は、お子様連れから、ご年配の方まで幅広く、気楽に親睦を深める場として、毎年好評を頂いておりました。特に今回は、新しい会員の方々のご参加を期待しております。どんどんご応募下さい。なお、詳細は９月に入ってから、改めてご案内させていただきます。皆様どうぞ御家族そろって、家族会を楽しんで下さい。





正倉院と昨年正倉院展看板（右上）

第31回 スケルトンゴルフコンペ 開催報告

担当幹事　久保　卓也（平成27年入局）

日時：2026年７月12日（日）
場所：天野山カントリークラブ

本年度の「第31回スケルトンゴルフコンペ」は、昨年と同様、青空が広がり心地よい風が吹き抜ける絶好のゴルフ日和に恵まれ、天野山の豊かな自然に囲まれた美しいコースにて開催されました。

参加者の数は11組44名（開業医19名、勤務医14名、プロ11名）とこれまでと比較しても非常に多くの方々にご参加いただきました。市整会の常連の先生方はもちろんのこと、寺井教授をはじめとする多くの勤務医の先生方、さらには若手の先生方まで、幅広い年齢層が集う盛大なコンペとなりました。

また、今回は各組にプロが１名ずつ同伴するという特別な形式でのラウンドとなりました。各組ではプロの圧巻のニアピンやバーディーに幾度となく歓声が上がり、大いに盛り上がりました。プレー中の歓談では、整形外科医同士の医学的な情報交換にとどまらず、プロゴルファーとしての生活や考え方に触れることができ、他職種の方との交流という点でも大変有意義な機会となりました。

プレー後の表彰式では、開業医の先生方から多大なるご協賛をいただいたおかげで、優勝者をはじめ参加者全員に豪華な賞品をお渡しすることができました。ご協賛いただいた先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

総合優勝を飾ったのは、石渡和輝（いしわたかずき）プロです。石渡プロは今年のACNツアーでも好成績を収めており、今後はレギュラーツアーでの活躍が大いに期待される選手です。皆様の温かい応援をよろしくお願いいたします。

また、公整会内の優勝は、誠に僭越ながら私、久保がいただきました。ゴルフが上達しているとお褒めいただくのに合わせて、「ちゃんと仕事をしているのか？」とお声がけいただくことも増えましたが（笑）、もちろん本業も真面目に務めております。

ベストグロス賞は、圧巻の「67」をマークされた中尾春陽（なかお はるひ）プロでした。中尾プロはJLPGAティーチングプロとして兵庫・大阪を中心にレッスン活動を行う傍ら、選手としても試合に出場されておりますので、こちらもぜひ応援のほどよろしくお願いいたします。

最後に会計報告となります。今回は会費として開業医の先生方から10,000円、勤務医の先生方から5,000円を頂戴いたしました。また、事前の予算編成により、昨年度の繰越金193,401円および今年度予算250,000円を活用させていただくことで、各組にプロを招聘するという充実したコンペを実現することができました。ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

今後の「スケルトンゴルフコンペ」につきましても、市整会や勤務医の先生方、そして若手の先生方を含め、さらに多くの方々にご参加いただけることを期待しております。周囲にゴルフをされる先生がいらっしゃいましたら、ぜひコンペのLINEグループへのご招待をお願いいたします。

今後も本コンペをますます盛り上げてまいりますので、毎年多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。



総合優勝：石渡和樹プロ

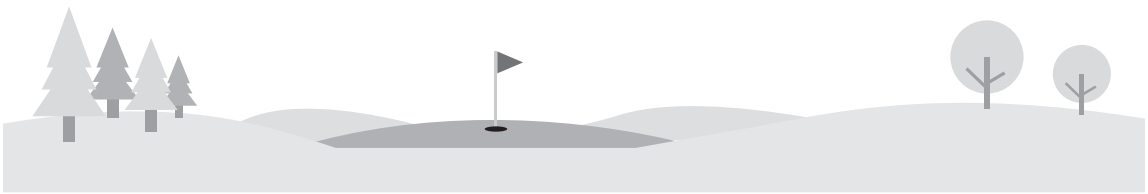


公整会部門優勝：久保卓也



スケルトン杯：公整会部門　　天野山カントリークラブ　2026.7.12

順位	競技者名	北	南	GROSS	HDCP	NET
優勝	久保　卓也	40	36	76	6	70
準優勝	牧　　修平	52	53	105	34.8	70.2
3位	豊川　英樹	45	40	85	13.2	71.8
4位	大戎　直人	49	47	96	24	72
5位	平川　義弘	48	47	95	21.6	73.4
6位	小阪　寿憲	47	41	88	14.4	73.6
7位	林崎　　広	55	43	98	24	74
8位	寺井　秀富	53	44	97	22.8	74.2
9位	岩城　啓好	50	40	90	15.6	74.4
10位	馬野　隆信	47	48	95	20.4	74.6
	飯田　高広	50	45	95	20.4	74.6
12位	吉田研二郎	55	52	107	31.2	75.8
13位	増田　　博	60	52	112	36	76
14位	祷　　史明	52	46	98	21.6	76.4
15位	横井　卓哉	42	43	85	8.4	76.6
16位	小竹　志郎	47	47	94	16.8	77.2
17位	西野　壱哉	58	54	112	34.8	77.2
18位	鄭　　明和	51	42	93	15.6	77.4
19位	臼井　俊方	47	52	99	21.6	77.4
20位	天野　祐一	51	47	98	20.4	77.6
21位	福岡　慎一	48	43	91	13.2	77.8
	箕田　行秀	48	43	91	13.2	77.8
23位	高橋　真治	56	41	97	19.2	77.8
24位	恵木　　丈	51	46	97	18	79
25位	鳥飼　大剛	49	52	101	21.6	79.4
26位	玉井　孝司	52	46	98	18	80
	金城　養典	52	46	98	18	80
28位	谷　　亮佑	60	56	116	36	80
29位	杉林　遼一	56	50	106	25.2	80.8
30位	辻尾　唯雄	57	47	104	22.8	81.2
31位	北野　利夫	64	57	121	36	85
32位	田中　直史	64	47	111	25.2	85.8
33位	鈴木　亨暢	60	62	122	36	86



スケルトン杯：総合部門　　天野山カントリークラブ　2026.7.12

順位	競技者名	北	南	GROSS	HDCP	NET
優勝	石渡　和輝	36	35	71	1.2	69.8
準優勝	久保　卓也	40	36	76	6	70
3位	庄内　理湖	34	35	69	-1.2	70.2
4位	牧　　修平	52	53	105	34.8	70.2
5位	後中　美璃	43	37	80	9.6	70.4
6位	澤田　知佳	36	37	73	2.4	70.6
7位	輪湖　彩華	40	36	76	4.8	71.2
8位	中尾　春陽	35	32	67	-4.8	71.8
9位	豊川　英樹	45	40	85	13.2	71.8
10位	樋口健太郎	39	33	72	0	72
	新武　恵利	37	35	72	0	72
12位	大戎　直人	49	47	96	24	72
13位	大谷菜々子	38	35	73	0	73
14位	江河　　鈴	43	35	78	4.8	73.2
15位	平川　義弘	48	47	95	21.6	73.4
16位	小阪　寿憲	47	41	88	14.4	73.6
17位	林崎　　広	55	43	98	24	74
18位	寺井　秀富	53	44	97	22.8	74.2
19位	岩城　啓好	50	40	90	15.6	74.4
20位	馬野　隆信	47	48	95	20.4	74.6
	飯田　高広	50	45	95	20.4	74.6
22位	吉田研二郎	55	52	107	31.2	75.8
23位	増田　　博	60	52	112	36	76
24位	祷　　史明	52	46	98	21.6	76.4
25位	寺田千帆里	41	38	79	2.4	76.6
26位	横井　卓哉	42	43	85	8.4	76.6
27位	小竹　志郎	47	47	94	16.8	77.2
28位	西野　壱哉	58	54	112	34.8	77.2
29位	鄭　　明和	51	42	93	15.6	77.4
30位	臼井　俊方	47	52	99	21.6	77.4
31位	天野　祐一	51	47	98	20.4	77.6
32位	福岡　慎一	48	43	91	13.2	77.8
32位	箕田　行秀	48	43	91	13.2	77.8
34位	高橋　真治	56	41	97	19.2	77.8
35位	恵木　　丈	51	46	97	18	79
36位	鳥飼　大剛	49	52	101	21.6	79.4
37位	玉井　孝司	52	46	98	18	80
37位	金城　養典	52	46	98	18	80
39位	谷　　亮佑	60	56	116	36	80
40位	杉林　遼一	56	50	106	25.2	80.8
41位	辻尾　唯雄	57	47	104	22.8	81.2
42位	北野　利夫	64	57	121	36	85
43位	田中　直史	64	47	111	25.2	85.8
44位	鈴木　亨暢	60	62	122	36	86

理事就任のご挨拶

小阪　寿憲（平成14年入局）

初めまして。この度2026年に市整会の理事を拝命致しました小阪寿憲（こさか　ひさのり）と申します。宜しくお願い致します。私の今までの勤務歴を中心に自己紹介をさせて下さい。

私は2002年（平成14年）に近畿大学を卒業し、同年に大阪公立大学　整形外科に入局しました。医局長の薦めもありまして研修医は大阪市立総合医療センターで行いました。当時も現在と同じく脊椎疾患の症例が多くまた末梢神経障害の症例も多くありましたが、整形外科のイロハもわからない私にとってそして同期も居ない２年間は日々修行でしたが、優しい先輩に沢山助けてもらったおかげで乗り切る事ができました。研修医としての生活はと言いますと１日のほとんどをどっぷりと病院で過し、晩御飯は上司と22時頃宅配を頼みそして奢って頂くという感じの連続でした。行動範囲は非常に狭く病院と裏にありました寮の往復だけで大阪市都島区にどっぷりと漬かっておりました。当時の部長でありました松田英樹先生を始め多くの上司に本当にお世話になりました。感謝申し上げます。

その後、大阪公立大学で１年間前期研究医として過ごし、初めて同期と一緒に仕事ができた事に他大学から入局した私にとって嬉しく感じておりました。また大学の先生方もほんとに丁寧にご指導頂きました。

翌年からは阪堺病院で５年間、大木毅先生の元で外傷を多く経験させて頂き、また外傷のテクニックを沢山御指導頂きました。しかしこの頃に専門分野を決める流れがありまして、脊椎外科を表明し、その後石切生喜病院で７年間勤務し脊椎外科指導医を取得する事が出来ました。また、松田英樹先生と再びお仕事を御一緒させて頂く事が出来ましたし、脊椎の手術のほとんどを松田先生に御指導頂いた経験は私の財産と実感しております。

思い返しますと当時も軸性疼痛の原因究明に色々発表がありました。ただ石切生喜病院では、松田先生の方法を伝授して頂きまして、展開に電気メスを一切使用せずラスパで骨膜からmuscleを剥離しメッツェンバームで切離し、項靭帯は愛護的処置を行いましたので、頚椎椎弓形成術後の患者のほとんどに軸性疼痛の訴えはなかったと記憶しております。また術後の筋委縮もあまりみられませんでした。

その後ですが様々の事がありまして、整形外科医として執刀を終了する事に何故か未練を感じる事はなく次のステージとして辻外科リハビリテーション病院にて日本リハビリテーション医学会リハビリテーション専門医を目指す事になりました。恥ずかしい話なのですが、実は回復期病院の存在を私は知りませんでした。脳梗塞後や脊髄損傷後、下腿切断後の自宅復帰までの流れ、治療期間など主治医にならないと知らない事ばかりで、中土保先生に御指導頂きました。専門医試験の勉強で大変だった事は、必要とされる知識に整形外科はもちろんそれ以外に脳神経内科、内科などの知識が必要で、捨てずに置いておいた国試の時のバイブル・イヤーノートも引っ張り出してきて、もうすぐ50歳を迎えそうな私の脳のcapacityの限界を感じつつ試験勉強を乗り越えて合格できたのは『不合格なら恥ずかしなあ』と感じる意地だけでして、コロナ禍にひたすら過去門を解いて乗り切りました。

そして2023年４月からは実家の小阪医院で内科の父親と一緒に仕事を行っております。内科かかりつけ医の患者さんのよろず相談的存在感を感じながら、うまくやっていければと思って日々外来をしております。

今後は、未病・予防の必要性を感じ、ピラティスなど何か別の形で患者様にアプローチできればさらに良いのではと考えている次第です。

以上拙い話で長くなりましたが、私の自己紹介とさせて頂きます。微力ではございますが、市整会　会長の小竹志郎先生を中心とした理事の業務・活動に携わっていきたい所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。



理事就任のご挨拶

前野　考史（平成13年入局）

この度、理事を拝命致しました前野考史と申します。

2001年に産業医科大学を卒後し、同年に大阪市立大学整形外科に入局させていただきました。脊椎外科医として臨床経験を積ませていただき、2022年４月に父、前野岳敏より医療法人前野整形外科クリニックを継承しました。

このたびは、市整会２代目として、脊椎外科の学術要員として理事を拝命したものと理解しています。

この記事を読まれている方のなかで父をご存じの方もおられると思いますが、２代目の自己紹介として父と私のエピソードをご紹介させていただきます。

父を一言で表現すると、私の中では“温厚”という言葉が浮かびます。子煩悩で、小さいときから親戚の子供と一緒に遊ぶことが多く、いろいろなところに連れて行ってくれた思い出があります。幼少期より医師である父の背中を見ながら育ち、医者、特に整形外科医の素晴らしい点をよく語ってくれていた父ですが、温厚すぎて押しが弱かったためか、医師になってほしいという思いは私にはあまり伝わっていませんでした。父自身が憧れた医師という職業に、父ほどの憧れがない、あるいは父とは異なった自己実現の欲求があったのかもしれません。エジプト考古学者の吉村作治教授やインディー・ジョーンズなどの考古学者に憧れて、高校に進学するときに文系を選択しようとして反対されてはじめて、父が本当に私に医者になってほしいのだという思いを認識しました。祖父、祖母も総出で私の説得が始まり、将来本当に考古学者になりたかったら医師になってから考古学をしたらいいということでその場はなんとかおさまり、文系から理系志望に変更しました。今では結局考古学者にならず、自己研鑽しながら目の前の患者さんを治療していく臨床家は天職と考えていますが、いまだに90歳を超えて精力的に考古学活動をしている吉村さんのニュースをみると、まだ考古学者になれるかな？というざわついた気持ちにもなります。



家族で行ったレストランにて

大学入学と共に家を出てからは父と一緒に生活したことがなく、いつかじっくりと医師同士の話ができると思っていましたが、そういう時間も満足にもてないまま脊椎外科として研鑽する忙しい生活の中で飛ぶように時間が流れていきました。かつて医師になってほしいという思いを伝えてくれた様に、父から診療所を継いでほしいという思いを伝えてくれてはいました。しかし、脊椎外科医として自分の中でまだやり残したことがあった私は、温厚で押しの弱い、元気そうな父の姿に安心して、父が体力的につらくなったときに考えようと決断を先送りにしていました。そうしているうちに診療所のSOSが伝えられたのは父からではなく、長年クリニックを支えてくれていたスタッフからでした。父は自分や私の母親も気づかないうちに認知症に罹患していました。それから、状況を把握するために土曜日の外来を手伝うことになりました。そのときに父からクリニックの医学

的なことや経営のことを教わろうとしましたが、父から得られる情報はかなり断片的なものになってしまっていました。それからは少しでも家族の時間を持とうと思い、毎週末奈良の実家に通いました。意思疎通のままならない父の姿を深く理解するにつれて、誰かにバトンを渡すまで黙々とあきらめずに診療を続けていた父の臨床にかける強い思いを感じました。そして、振り返るとそれが私にとって父とふれあえた貴重な時間になりました。どんなに認知症が進んでも不治の病に冒されても、最後まで気さくでユーモアがあり、他人を思いやり、弱音を吐かず決して諦めない、温厚な父のままでした。

父が2025年５月に他界してから、市整会のことも含めてもっといろいろ聞いておけばよかったなという思いがときどき頭をもたげてきます。市整会の先生方や以前父がみていた患者さんから、父在りし日のエピソードを聞くと元気な父の姿が目に浮かび、父が大切にしていた市整会や診療所がかけがえのない存在に見えてくるのも不思議な感覚です。今では考古学者になるのではなく、父が遺してくれたこの大切な場所をできるだけ永く守りたいと思っています。

新理事の抱負としては、脊椎外科指導医として脊椎外科道を極めながら、市整会の学術活動をサポートしたいと思います。また、歴史ある市整会の存続のために必要な要素を創出するために、まずは市整会自身をよく知る必要があると今は感じています。

最後に、このような執筆の機会を与えていただき、父のことを思い返すいい機会を与えていただいた、父がこよなく愛した市整会のお役に立ちたいと考えていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



市整会理事就任にあたって

整形外科たかひろクリニック　院長
高遼会病院　理事長　　飯田　高広（平成14年入局）



このたび、令和８年４月より、大阪公立大学整形外科学教室の開業医会である市整会の理事を拝命いたしました。歴史ある市整会の理事という大役を仰せつかり、大変光栄に存じますとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いでおります。これまで市整会を支えてこられた諸先輩方、同門の先生方、そして日頃よりご指導を賜っております大阪公立大学整形外科学教室の先生方に、心より御礼申し上げます。

今回、新理事就任のご挨拶として、「来し方、行く末」というテーマをいただきました。自らのこれまでを振り返り、またこれからの地域医療、開業医のあり方、市整会の役割について考える、非常に貴重な機会をいただいたと感じております。

私は現在、整形外科たかひろクリニックならびに高遼会病院において、地域の整形外科医療に携わっております。日々の外来診療、リハビリテーション、関節疾患を中心とした診療、そして病院における手術医療を通じて、患者さんの「痛みを取りたい」「歩けるようになりたい」「仕事や日常生活に戻りたい」という切実な思いに向き合ってまいりました。整形外科は、単に疾患を治療するだけでなく、その人らしい生活を支える医療であることを、地域医療の現場で強く実感しております。

私のこれまでの歩みを振り返りますと、大学医局で学ばせていただいた整形外科医としての基本姿勢、専門性、そして患者さんに対する向き合い方が、現在の診療の土台になっております。大学や関連病院でご指導いただいた先生方からは、手術手技や診断能力だけでなく、医師としての責任感、チーム医療の重要性、そして後進を育てる姿勢を学ばせていただきました。現在、地域で診療を行う中でも、その教えは日々の判断や患者さんへの説明、スタッフとの関わりの中に生きていると感じております。

開業後、そして病院運営に携わるようになってからは、医師としての視点に加え、医療機関を継続的に運営していく責任の大きさを実感するようになりました。診療の質を保つことはもちろん、看護師、理学療法士、放射線技師、事務職員など、多くの職種が安心して働ける環境を整えること、地域の患者さんに選ばれる医療機関であり続けること、さらに大学病院や基幹病院、近隣医療機関と円滑に連携していくことが求められます。医療は医師一人で完結するものではなく、組織としての力、地域としての力によって支えられていることを、改めて感じております。

当法人では、外来診療を中心としたクリニック機能と、入院・手術・リハビリテーションを担う病院機能を組み合わせ、地域の整形外科医療をできるだけ切れ目なく支えることを目指してまいりました。特に高齢化が進む中で、変形性関節症、脊椎疾患、骨粗鬆症、骨折後の機能低下、フレイルやサルコペニアなど、整形外科が担うべき領域はますます広がっています。外来での早期診断、保存療法、リハビリテーション、必要に応じた手術治療、そして術後の生活復帰支援まで、一連の流れを地域の中で完結できる体制づくりが重要で

あると考えております。

一方で、開業医を取り巻く医療情勢は、今後さらに厳しさを増していくものと思われます。少子高齢化による患者構造の変化、医療従事者の確保難、働き方改革、診療報酬改定への対応、医療DXの推進、物価や人件費の上昇など、医療機関の運営には多くの課題が山積しています。特に整形外科においては、リハビリテーション体制の維持、スタッフ教育、地域包括ケアとの連携、慢性疾患への継続的対応など、診療以外の部分にも大きな労力が必要となっています。

これからの開業医には、従来のように「地域で外来を行う医師」という役割にとどまらず、地域医療全体の中で自院の立ち位置を明確にし、病院、介護、在宅、リハビリテーション、行政とも連携しながら、患者さんを支えるハブとしての役割が求められるのではないかと感じています。特に整形外科は、患者さんの生活機能に直結する診療科です。痛みを取ること、歩行能力を維持すること、転倒や骨折を予防すること、術後に再び社会生活へ戻っていただくことは、患者さん本人だけでなく、ご家族や地域社会にとっても大きな意味を持ちます。

また、今後は大学病院や基幹病院と開業医との連携が、これまで以上に重要になると考えております。専門性の高い医療、急性期医療、手術医療を担う病院と、日常診療や術後フォロー、慢性疾患管理、リハビリテーションを担う地域医療機関が、互いの役割を理解し、顔の見える関係を築くことが、患者さんにとって最も安心できる医療につながります。私自身も日々、大学や関連病院の先生方にご相談させていただく中で、同門のつながりのありがたさを強く感じております。

その意味で、市整会の存在意義は非常に大きいものがあります。市整会は、単なる親睦の場ではなく、大阪公立大学整形外科学教室を基盤とする同門の開業医が集い、情報を共有し、地域医療の課題を考え、大学医局との連携を深めるための大切な場であると考えております。日常診療での悩み、経営上の課題、スタッフ採用や教育、リハビリテーションの運用、診療報酬改定への対応、病診連携のあり方など、開業医が直面する課題は多岐にわたります。こうした課題を一人で抱えるのではなく、同門の先生方と共有し、互いの経験から学び合えることは、市整会ならではの大きな価値であると思います。

また、若い先生方にとっても、市整会が将来のキャリアを考える一助となる場であってほしいと考えております。大学や病院で勤務されている先生方にとって、開業医の実際の姿や地域医療の現場は、なかなか見えにくい部分もあるかもしれません。反対に、地域で診療する私たちにとっても、大学で行われている最新の治療、研究、教育、専門的な取り組みを知ることは非常に重要です。市整会が、大学と地域、勤務医と開業医、若い世代と先輩方をつなぐ場として、今後さらに発展していくことを願っております。

理事としての私の役割は、決して大きなことを一人で成し遂げることではなく、これまで諸先輩方が築いてこられた市整会の歴史と伝統を大切にしながら、微力ながら会の運営を支え、同門の先生方が参加しやすく、相談しやすく、学びのある会づくりに貢献することだと考えております。特に、地域医療の現場で得た経験や、クリニック・病院運営に携わる中で感じている課題を共有し、少しでも会員の先生方のお役に立てるよう努めてまいりたいと思います。

「来し方」を振り返れば、多くの先生方のご指導とご縁に支えられて、今の自分があります。そして「行く末」を考えるとき、整形外科医療の役割は今後ますます大きくなり、開業医にもより広い視野と柔軟な対応力が求められる時代になると感じています。そのような時代だからこそ、同門のつながり、大学との連携、地域医療機関同士の協力が、これまで以上に重要になるのではないでしょうか。

最後になりましたが、このたび理事を拝命いたしましたことに改めて感謝申し上げます。至らぬ点も多々あるかと存じますが、市整会の発展に少しでも貢献できますよう、誠心誠意努めてまいります。諸先輩方、同門の先生方には、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪公立大学整形外科学教室ならびに市整会のますますのご発展と、会員の先生方のご健勝、ご活躍を心より祈念し、新理事就任のご挨拶とさせていただきます。

開業34年を迎えて

秋野　一男（昭和56年入局）

私は1992年（平成４年）９月２日、住之江区の新築医療ビルの２階、約40坪のスペースで開業し、約34年が過ぎました。

時代は1990年のバブル崩壊からわずか２年。その時はまさか日本が失われた30年と言われる時代に入るとは誰もが思ってもいませんでした。

開業の約１年前、滋賀医大の同級生の藤井載樹君が「秋野君ここで開業するんや。こんなええ場所は無いで、開業はマッチ一本すったら周りが全部燃えるとこがいいんや！」と突然話を持ってきてくれました。

当時私は開業したいとの意思はありましたが学位論文を提出したばかりで、学位取得後お礼奉公を済ませた上で開業を考えようかと思っていたためいったんはその話をお断りしました。しかし、藤井君は「こんな良い場所はない」と強引で、コピー用紙２枚に詳細な収支計画書も作ってくれるなど自分が開業するかのように熱心に勧めてくれました。その上仲介の薬局の方もいい人で、いろいろなお願いを次々と飲んでくれたためついに開業を決心しました。

しかし、医局に開業の意思を伝えたところ、当時の島津教授が激怒し「お前には学位はやらん」と提出していた学位論文が通らない危機となりました。当時の医局長であった吉田研二郎先生にもご迷惑をおかけしましたが学位論文の指導をしていただいた佐藤哲也先生のご尽力により1992年６月24日に無事学位を取得できました。

幸いなことに開業後は順調に軌道に乗り、すぐに来院数が１日300名を超すようになり、近隣の方から「底が抜けるで」とからかわれるほどの盛況ぶりとなりました。開業４年経ったころビルの一階に入る予定であったスーパーの出店が中止になり、日本薬局の上辻社長に空いていた１階65坪のスペースに移ることを勧められました。元の２階に皮膚科を誘致してくれるなど色々と熱心に協力してもらい1996年にそちらへ移転することができました。

移転後も順調に患者数は伸び、１日400名近くの来院を記録しました。

その後は近くに自社ビルをいつか建てたいと思っており、ちょうど大通り沿いの広い土地に目を付けたのですが当時は大手印刷会社の所有であり不動産会社に行ってもいくら待っても売りには出ませんと断られいったんは断念しました。

当時は介護保険もなく、クリニックがサロンと化している状態でしたが、時代の変化によって団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題の話が出て、整形外科と介護施設の併設の必要性が認知されるようになり、天野祐一先生とセミナーに行き、成功例を聞いて驚き、感心していました。

平穏ながらも退屈していたところ、以前より目をつけていた土地が600坪一括で建売業者に売却されたとの話が舞い込みました。私は急いで建売業者に連絡を取り、バスも通る表通りの160坪あまりの土地を交渉の末、言い値で購入しました。当時私は59歳であり、土地を購入しすぐ計画していたアフリカ旅行に出発するなど公私共に忙しかったですが、まだ元気で若く、高揚感がありました。

いろいろ考えた末に医療ビルを建て、１階を自分のクリニック、２階を内科と耳鼻科のテナントクリニック、３階をデイサービスにすることとしました。３階のデイサービスは整形外科が経営するものとして恥ずかしくないレベルのデイサービスにしようと思い、大手デイサービスのフランチャイズで妻に手伝ってもらい、ワンフロア100坪の広々としたリハビリ特化型デイサービスとしてオープンしました。また、ビル建設に関しても上記の上辻社長に全面的に協力、手配をしていただき、新たに多くの従業員を迎え2015年８月に再び移転オープンできました。

移転後は経営もうまくいきとても忙しくしていましたが、2020年コロナ騒動がおき、自治体から

の利用自粛要請や従業員からの不安の声もあり困り果てました。しかし、フランチャイザーに直営にしていただけないかと申し入れ、そのままテナントとして事業継続していただけたため大変助かり、現在に至ります。

思い起こせば若いころは人生を少し甘く見ていたように思います。根拠のない自己効力感も強く、上杉鷹山公の「為せば成る，為さねばならぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」との言葉を信じて34年間、計画が杜撰な所もありましたが時代もよく、力任せにやってきました。

歳をとり、挑戦心が無くなってきて、恙無きよう、平穏を望むようになってきています。振り返れば今まで多くの人生のターニングポイントでよい人に巡り会い、ほとんどおんぶに抱っこでここまでやってきました。唯々、人と運に恵まれていたと感じ、多くの人に感謝しています。特に妻には全面的に頼っており、銀行に行くことから給与の振り込みまで任せっぱなしで自分ではやったことがなく、妻がいなければ何もできず本当に感謝しています。

現在は息子に仕事を引き継ぐべく一緒に働きながらこれからの余生について考えを巡らせている日々であります。皆様、これからももう少しよろしくお願いいたします。



城郭探訪　郡上八幡城

天野　祐一（昭和57年入局）

美濃の国郡上八幡といえば、７月から９月始めまで町中のどこかで30日間、連日踊りが有り、特にお盆期間の８月13日から16日までの４日間は午後８時から翌朝の４時５時まで徹夜で踊りまくる「徹夜踊り」に全国から踊り手がやって来るので有名です。

郡上八幡は越前、飛騨に囲まれており北陸や飛騨路、木曽路につながる街道がある交通の要衝です。街の中心を東から吉田川が流れ、南北に流れて岐阜や名古屋を経て伊勢湾に流れ込む長良川に合流します、吉田川にも北から小駄良川が流れこみ町中に水路がつくられています。

西の越前大野と郡上市を結ぶ油坂峠は明治22年に人が通れるトンネルが開通しましたが、それまでは標高720ｍの峠越えでした。名前の由来は峠越えの坂がきつく旅人が油汗を流したことからとか、越前一向一揆の軍勢を郡上遠藤氏がこの峠で迎え撃った事により峠道が血糊で油のようになったことから名前がついたとも言われています。

最近では、1999年に油坂峠に新しいトンネルが開通して荒島岳を貫いて郡上から越前大野、福井市までが格段に便利になったようです。トンネルへのアプローチは標高を稼ぐためのループ橋になっており大工事だったことでしょう。

豊富な水量の長良川を利用しての水運や漁業も盛んで川沿いには鮎料理の店が下流までみられます。

鎌倉時代に地頭職となった幕府御家人の東氏（とうし）が奥美濃の周辺を支配しました。ここは越前との国境で常に緊張を強いられていたようです。

下克上の世になって遠藤氏と争い赤谷山城の戦いで郡上東氏は滅ぼされ、遠藤盛数の子、慶隆が郡上を統一し、郡上八幡城や城下町を創設しました。城は長良川に注ぐ吉田川を挟んで赤谷山の向かい牛首山（現八幡山）山頂に築城。遠藤氏はその後秀吉によって改易させられます。1588年に稲葉氏一族の稲葉貞直が領主となり石垣の増築などを行い山城として完成させました。

関ヶ原の戦いの前哨戦の一つの八幡城の戦いでは東軍の遠藤氏、金森氏と西軍の稲葉氏の戦いとなり東軍の勝利で遠藤氏が再び城主になりました。初代藩主の孫の遠藤常友が城下町や城の大規模改修を行いました。侍町では隣家との境に袖壁が設えられ、防火への意識がみられます。この町はその後、1756年の宝暦騒動（郡上一揆）では重税を課した時の藩主金森氏を５年にわたる一揆で改易に追い込みました。そればかりではなく幕府の老中までもが失脚する大事件になりました。

この時の連判状が傘状であり、誰が首班ということでは無く平等に扱われるためといわれています。天守閣に傘の連判状が展示されています。その後も明治の廃城令で天守が破却されるまで300年に渡って井上氏、青山氏の居城となりました。

現在の天守閣は昭和８年といいますから93年前に時の八幡町長の決断により立派な木造天守閣が再建されました。木造の再建天守閣としては日本最古を誇っています。

天守閣は八幡山山頂にありもちろん町中から歩いて登れますが、ドライブウェイが天守閣の建つ石垣の直下まで整備されており楽々と登城出来ます。城内は近江八幡城の歴史や絵巻物が展示されおり天守からは四方が見渡せ、東西南北に街道が続くのが見られます。

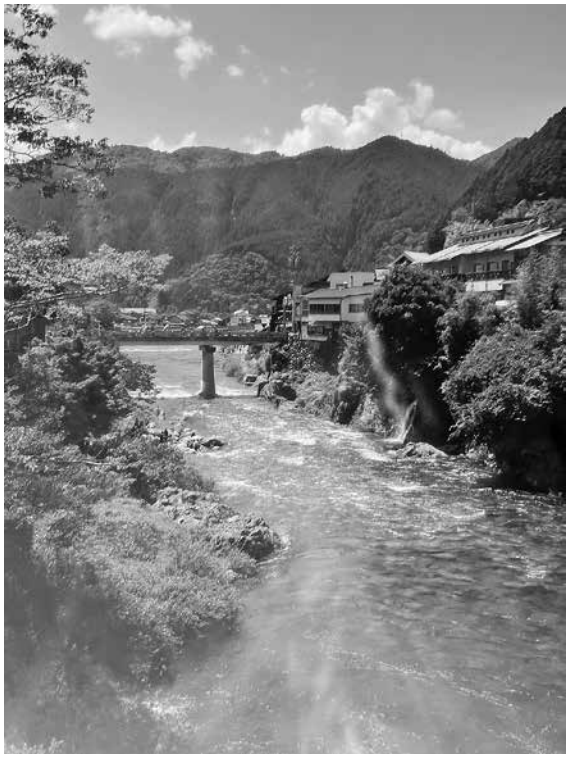
城にまつわる色んなエピソードがあります。「人柱およしの伝説」や「赤髭作兵衛の力石伝説」、ご婦人の内助の功で有名な山内一豊の賢婦人千代が遠藤家の娘という説もあります。

郡上踊りは江戸時代初期にときの藩主遠藤慶隆が領民の融和を図るため村々の踊りを集めて奨励したとのことです。ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

今に続く各地の祭りや踊りは平和になってきた安土桃山時代から江戸時代にうまれたものが多い



郡上八幡城



郡上八幡吉田川

ようです。長浜の曳山（ひきやま）まつりの子供歌舞伎は秀吉に長男が生まれたときに町内に祝い金を下賜したところ、各町内がこれで舞台付きの曳山を作り祭りになりました。近隣の町の子供歌舞伎はここから各地へ広がったようです。

また、阿波踊りも天正14年に徳島藩初代藩主の蜂須賀家政が徳島城の築城行事で領民が踊り狂ったのが始まりとのこと、その歌詞にも「阿波の殿様　蜂須賀公が　今に残せし　阿波踊り」とあります。あの「よしこの節」が聞こえてくるとウキウキしますね。「同じ阿呆なら踊らにゃ損々」って名文句だとおもいます。

郡上八幡は町中の雰囲気も善いですし河辺の散策も楽しく、お盆休みに訪れた時は川遊びのため宿から水着で駆け回る楽しそうな子供たちの姿が見られました。

「ちびまる子ちゃん」の作者のさくらももこさんが一方的に個人的に郡上八幡に魅了され、勝手に町を応援して誕生した「GJ８マン」（ジー・ジェイ・８マン＝グジョウハチマンから）もすっかり街のキャラクターになっています。川に通じる小道もいたるところにあり、迷路のような楽しみ方もできますし川は子供が遊べる安全な場所や郡上八幡名物として吉田川にかかる高さ12mの新橋から度胸試しに飛びこむ深いところもあります。町を歩けば下駄屋さんが沢山あります、郡上踊りの特徴で下駄を鳴らして踊るので減るのが早いのでしょうか、色とりどりの下駄が並べられています。ぜひ踊りのシーズンに訪れたいものです。

大阪からは車で３時間、名神から東海北陸自動車道で230キロです。

2025年８月15日訪問

大正の家が“甘味処”として よみがえった話

―泉佐野・元町での思い出とこれから―

馬野　隆信（昭和58年入局）

私は泉佐野市元町という、昔ながらの商家が並ぶ小さな通りで生まれ育ちました。今もその道を歩くと、潮風と人の気配が混ざり合う、どこか懐かしい空気を感じます。子どものころの私にとって、家の周りは遊び場であり、人とのつながりを自然に学ぶ場所であり、そして実家そのものが安心できる“世界の中心”でした。

実家は大正時代に建てられた木造の建物（写真１）で、戦前は造り酒屋として地域の方々に親しまれていました。祖父母が話してくれた昔の様子は、まるで時代劇のワンシーンのようで、酒蔵の香りや作業の風景を想像しながら聞くのが好きでした。太い梁や土壁、少し暗い土間など、建物全体には“長く生きてきた家”ならではの風情があり、私はその中で育ちました。

戦後しばらくして父が酒類販売業を継ぎました。店の奥で遊んでいると、お客さんと楽しそうに話す父の声が聞こえ、年末には慌ただしく瓶を扱う音が響きました。晩年、後継ぎのいない店を閉め、令和３年に父が亡くなったとき、長い年月を共にしてきた実家も、どこか寂しげに見えたものです。

その後、実家はしばらく空き家のまま静かに時間を重ねていました。百年以上の歴史をもつ建物をどうするのか、家族の中でも迷いがありました。解体すれば気持ちはすっきりするかもしれません。しかし、父はこの建物を何かに生かしてほしいと願っていましたし、大正から続く家の記憶が消えてしまうと思うと、簡単には決断できませんでした。

そんな折、泉佐野市が進める地域活性化事業の一環として、古い建物を再生させるプロジェクトがあることを知りました。元町周辺の歴史ある町並みを大切にしながら、若い世代や観光客にも親しまれるまちづくりを目指す取り組みです。市の担当者が実家を見に来られ、「これは残す価値がありますね」と言ってくださったとき、胸の奥がふっと温かくなりました。長い間家族を見守ってきた建物が、新しい役割を得る時が来たのかもしれない――そんな期待が芽生えました。

そして令和７年３月、実家は「甘味茶房　さのまち庵」として新たな姿でオープンしました（写真２）。リノベーションでは、古い家の良さをできる限り残していただきました。黒く艶のある柱や歴史を物語る梁、少しゆがんだガラス戸など、子どものころから見慣れた風景が丁寧に整えられてよみがえったのです。幼い頃、私が破ってしまったであろう襖は、泉佐野市の日本遺産である北前船を題材とした襖絵としてアーティストの方に描いていただきました。また、２階にあった私の勉強部屋もリノベーションされ、現在は着物体験の部屋として活用されています。

提供される甘味には地元の素材が使われ、どこか素朴で優しい味わいがあります。休日に店をのぞくと、近所の方々がゆっくりお茶を楽しんだり、観光客が写真を撮ったりしておられます。かつて父が店先でお客さんと親しく話していたように、今は別の形で人が集まり、にぎわいが生まれていることが、とても嬉しく感じられます。

医療の仕事に携わりながら地域と向き合っていると、「まちの歴史」や「人のつながり」の力を実感することがあります。今回、実家が甘味処として第二の人生を歩み始めたことで、私自身も地域との関わりを改めて見つめ直すきっかけとなりました。生まれ育った場所が今も人を迎え入れ、地域に小さな彩りを添えていることは、私にとって大きな喜びです。

もし父や祖父母が今の店を見たら、どんな顔を



写真１：酒類販売業の実家（大正時代の建物）



写真２：「甘味茶房　さのまち庵」外観（オープン後）

するだろうと想像することがあります。きっと「こんな形もええな」と笑ってくれるのではないでしょうか。昔の記憶はそのままに、今の時代に合った姿で家が息を吹き返している――それは私にとって、時間を超えたつながりを感じさせてくれる出来事です。

今回のリノベーションは、泉佐野市の皆様をはじめ、設計や施工に携わってくださった多くの方々の丁寧なご尽力のおかげで実現しました。心より感謝申し上げます。これからも、まちを訪れる方々や地域の皆様にとって、ほっとできる場所として親しまれることを願っております。

甘味茶房さのまち庵は、南海本線泉佐野駅西出口より徒歩５分、関西国際空港駅から一駅の場所にあります。りんくうプレミアムアウトレットからも車で数分ですので、お近くへお越しの際はぜひ一度お立ち寄りください。

はーるばる来たぜ　クロアチア♪

阪本　博史（昭和59年入局）

昨年のお盆休み、スロベニア、クロアチアに行ってきました。関空からイスタンブールまで12時間30分、乗り継ぎ２時間20分、スロベニア　リュブリャナまで１時間15分です。乗り継ぎのイスタンブール空港はとにかく広く、乗り継ぎゲートまで、移動だけで20分は歩きました。ブランドショップなど、デパート五つ分くらい店の数はありますが、朝時間が早すぎたためイートインしか開いていませんでした。

クロアチアに直接入るのではなく、まず、スロベニアの観光から始まりました。スロベニアの首都リュブリャナ　Ljubljana　全く読めません。小さな国ですが、ユーゴスラビア連邦のころからの工業国です。イタリアと接していて、ほぼイタリアっぽい綺麗な小さな国です。全く何が見所なのかわからず、ツアーガイドさんに引っ付いて行きましたが、見所たっぷりの国でした。圧巻だったのは、ポストイナ鍾乳洞。秋芳洞の100倍以上の広さの巨大な地下空間です。解っているだけで、全長24㎞、難波から箕面くらいまで続いている鍾乳洞です。トロッコに乗って行きますが、歩きの見物とで、約１時間はかかります。地下鉄が走れるくらいの広さがあり小さなコンサートホールくらいは作れそうです。「鍾乳洞の女王」と呼ばれています。ユーゴスラビアの初代大統領「チトー」の別荘もブレット湖という風光明媚な湖畔にありました。

次は、バスでクロアチア　ザグレブへ。ほんの２時間です。ちょっと街中を観光し、ボスニア戦争の傷跡（弾痕）を見て、プリトビチェへ。プリトビチェ湖群国立公園。エメラルドグリーンの湖と真っ白な大理石。絶景でした。ときどき「熊」が出るのがたまにキズですが。またバスで３時間半、アドリア海に面した、スプリット。ローマの賢帝ディオクレティアヌスが隠居する為に作った宮殿があります。自身の出身地クロアチア　ダルメシア地方（犬のダルメシアンの産地）スプリットに生前退位した後、宮殿を紀元300年ころに建てて隠居生活をおくった宮殿が今まで残っています。宮殿として使われなくなってからは、市民が入り込んで住んでいます。宮殿敷地内にネクタイの老舗店がありました。クロアチアは「ネクタ





イ」発祥の地で、昔フランスで、クロアチアの傭兵が首に目印の布を巻いていたのがおしゃれだったので、それをフランス人がまねて取り入れたのが始まりだそうです。フランスでは今でも、ネクタイのことを「クロアト」というそうです。

いよいよ今回の旅行の目的、ドブロブニク。「アドリア海の真珠」中世の港湾要塞都市です。アドリア海をはさんで、ベネチアと対抗して15から16世紀、海洋交易で栄えた、貿易の中心でした。街全体を城壁が囲み、中世そのままの街が保存されて、ユネスコ世界遺産に登録されています。街の感じは、ベネチアに似ていますが、大きさは1/4くらいで、２時間もあれば十分見て回れます。海に面した街ですので、海の幸を生かした海鮮料理がとてもおいしく、味付けはイタリア料理です。つまり、オリーブオイルと塩、トマト、バジルでさっぱりと素材の味を楽しめます。船で街の周りをクルージングしたのですが、アドリア海の透明度がすばらしく、まさにコバルトブルーでした。すこし沖合いの小さな島は「ヌーディストビーチ」発祥の地で、多くのヌーディスト達が、日光浴をしていましたが、男女とも年齢層が高く、……でした。

最近、東ヨーロッパ、バルカン半島の観光が人気だそうです。西ヨーロッパに比べて田舎感があり、移民も少なく治安も良いので、旅行するストレスの少ない地域が好まれているそうです。旧ユーゴのスロベニア、クロアチア、ボスニア、セルビア、コソボ、モンテネグロ、マケドニアの７カ国。古いヨーロッパを体感するには、おもしろい国々です。ありきたりの海外旅行に飽きた方にはお薦めです。

生駒山散歩

鱧永　浩（平成７年入局）

市整会の皆様、大阪や奈良の人にはとっても身近な山、生駒山に登って来ました。

長年持っている、私のネガティブな性格、出かけたいけど出かけられない、グループ行動が苦手で、対人恐怖、ひとりが好きで、毎日、自宅と職場の往復しかしてないなあ、また山に登りたいなあと以前話をしていましたら、生駒登りましょうと誘ってくれたのが小阪先生でした。

ぜひ連れてってー。ということで５月の終わりの日曜日に行くことになりました。コロナ禍の前は、ひとりで九州や北海道に、週末に弾丸旅行したり、ひとり登山をしたりしていたのですが、自粛が流行ったせいで、旅行やアウトドアを楽しむことを忘れてしまっていました。小阪先生の案内で登れるので、とても楽しみで、前の晩にせっせと準備にとりかかりました。

気分があがるので、登山グッズにもこだわっていて、昔揃えたものをひっぱりだしておりました。上着は薄手のマムートのジャケット、ミズノのシャツ、ソックス、アディダスのパンツ、トレッキングシューズ、グローブ、サロモンのザック、レキのトレッキングポール、無名ブランドの大きいハット、などなどブランドはバラバラですが、準備は楽しいものでした。どこの名山に登るのかと言うくらいしっかり準備をし、気持ちが高揚して、なかなか寝付けませんでした。

当日朝、近鉄奈良線、枚岡駅で待ち合わせて早速、生駒山頂へ向かいます。小阪隊長から、ゆっくり登って、生駒山頂の遊園地で少し休んで、帰りはケーブルカーで生駒駅まで降りて、お昼食べましょうとの提案をうけて、あー楽しみー、と幸せ気分いっぱいで歩き始めたのでした。

はじめは山手の住宅街を歩くので、楽々なのですが、そこを過ぎると急な山坂道の連続でした。歩き始めのころは、お互いの近況の話をし、出会った人に笑顔でこんにちわー、なんて挨拶しながら、余裕でしたが、登るに連れて、へとへとになりながら、無心で歩くことに集中することになり、だんだん声が出なくなってきて、休憩場を見つけては、休んで、また登って、を繰り返して登って行きました。足場は悪くないのですが、なだらかな道はほとんどなくて、トレッキングポールのお世話になりながら登って行きました。身体からでる汗がなんとも心地よいもので、幸せいっぱいの気持ちを噛み締め、気のおける小阪隊長と登るのは最高の気分でした。

天気も良く、中腹を過ぎると、山道からハルカスや遠くに淡路島、明石海峡大橋なんかも垣間見ることができ、大阪湾に広がる景色を堪能しました。小阪隊長は、パシパシ写真を撮ったりしなが





生駒山頂にて、左：小阪先生　右：鱧永

ら、余裕で登っておられ、自分との体力の差を痛感させられることとなりました。

生駒山へのルートは色々あって、途中に分岐路も多いので、迷子になりやすそうで、道をよく知った人に案内してもらうか、ひとりならばあらかじめ経路を予習して、スマホにGPSを利用した登山アプリなんかを入れて持っていると、安心できると思います。

意外と急登で、高さ600メートル級の低山にしては、なかなかしんどい道のりでしたが、登りきって、NTTの電波塔まで辿り着くと、登ったどーっと、達成感があり、ますます幸せ気分いっぱいになりました。

山頂の遊園地は日曜日の昼前で、多くのお客さんがいましたので、こっそり着替えてスッキリしてから、ゆったりベンチで休みつつ、ビールで乾杯です。最高な気分でした。

その後、ケーブルカーで近鉄生駒駅まで下りましたが、途中の駅で別のケーブルカーへの乗り換えがあり、ユニークな乗り物でした。

生駒駅ビルに焼き鳥屋があったので、そこでまたビールを飲んで、色々食べたりして幸せを満喫しました。生駒登りの消費カロリーは500キロカロリーぐらいらしく、その２倍は食べてしまいました。

朝から運動して、気持ちのいい汗をかいて、昼から食べて飲んで、こんな幸せな時間はないなあと思いました。

最近の自分は、生き方を改め、物事を決める時、どちらが正しいか、他人に良い評価をされるかではなくて、自分の気分が良くなる方を選んだり、また気分が良くなる時間ができるだけ長くなる方法を考えて、気分の悪いことは放置して、全く別のこと考えることにしています。山登りは登ることだけに気持ちを集中して、余計な思考が浮かばないので、気分を良くしてくれます。

こんな素敵な思いをさせてくれた生駒山に感謝をし、閉じこもりがちだった私を山に誘って案内までしてくれた小阪先生に感謝し、また日曜日にひとりで遊びに出かける自分を快く送り出してくれた家族に感謝しています。

最後にこの拙いお話を読んでくださった皆様にお礼を申し上げて、筆をおきたいと思います。

フルマラソン47都道府県制覇

祷　史明（平成８年入局）

「なんでそんなしんどいことするん？」とよく聞かれます。実は私自身も「なんでやろ？」と時々自問自答します。今回は、そんな私の趣味であるマラソンのお話です。

フルマラソンに初出場したのは齢30過ぎの頃、尼崎シティマラソンでした。その頃ハーフマラソンは１時間50分切りで走っていたので、サブ４なんか余裕やんと思っていた私はきっちり返り討ちに会いました。いわゆる30㎞の壁です。脚はつって前に出ず、ご高齢のランナーに次々と抜き去られ、結果は５時間40分の惨敗でした。一念発起し鍛錬を積み、2011年第１回大阪マラソンに出場、ここからサブ４への挑戦とともにマラソン沼が始まりました。

初サブ４は案外あっさりと2013年の第３回大阪マラソンで達成、そうなると更に欲深くサブ3.5と目標が上方修正されます。しかしここからは厳しかった。ちゃんと練習しないとタイムは伸びないし、かといって練習する時間もない。そして練習しすぎると肉ばなれなど怪我をする。そんな悪戦苦闘の繰り返しでしたがそれでも何とか努力を重ねて2019年の神戸マラソンでやっと念願のサブ3.5を果たしました。よし、ここからは山中伸弥教授（いつも３時間20分前後で完走される健脚で有名です）越え、あわよくばサブ３だ、と意気込んでいたのですが2020年コロナ禍が始まり、のきなみマラソン大会が中止となります。大会がなくなるとモチベーションも下がり練習量も減り体重も増加、みるみるあかんようになっていく自分を自覚できました。そしてコロナ明けの初マラソン2022年富山マラソンでは息子と親子での初出場と張り切ったのですが、ハーフ地点で失速し何とかぎりぎりのサブ４。その後のレースも４時間切ったり切れなかったりと進歩が見られず、年齢も重ねもうタイム更新を狙うのは無理かなと諦めの境地に達してきました。

タイム更新を半ば諦め、走る目標を失いかけていた頃、大学の同級生ランナーがマラソン100回完走という偉業を達成しました。その祝賀会で彼が「47都道府県制覇」も目標にしていると知り、「それなら私にもできるかもしれない」と思った瞬間、新しい目標が生まれました。しかしその時点（2024年11月）での私の出場県はというと僅か９!（大阪・京都・奈良・兵庫・滋賀・福岡・石川・富山・東京）ここからは綿密な出場計画と続けて走れる体調管理、そして週末ごとに一人旅に出て、洗濯物だけ大量に持ち帰ることへの“贖罪”としての家庭サービス（これが一番大変かもしれません）へと考え方がシフトするようになりました。

するとこれが中々面白い。まず出場計画についてですが、もともと旅行好きの私にとってどこのホテルに泊まって何を食べるかと計画するのはすごく楽しい。地方大会はエイドの特産品も充実し、コースにも名所が盛り込まれていて、４時間ほどで効率よく観光まで楽しめます。

最近の事でいうと指宿マラソンに高校時代のラン仲間と出場したのですが、土曜日夜着の飛行機で行き鹿児島空港からレンタカーを借りて地元民ナンバーワン人気の「竹亭」という車でしか行けないとんかつ屋さんで黒豚とんかつを堪能。鹿児島泊して翌朝指宿入りしマラソン終了後は指宿の温泉に入浴して日曜日夜の飛行機で帰阪するという強行軍でしたが、ここにマラソン中の池田湖や開聞岳観光がセットで凝縮されているという感じです。

また静岡マラソンでは前日に名物鰻を食し、当日マラソンではエイドで名物静岡おでんを堪能した上に美しい富士山の雄姿を眺めつつ走る至福の時間を過ごしました。

次に走るための体調管理ですが、これが仕事に役立ちます。今まではがむしゃらに練習時間と練習距離がものをいうとの考えで、走り方やストレッチなどあまり考慮せずに走っていたのですが、



東京マラソン2024ゴール後の私



現在の都道府県制覇の状況　21/47達成

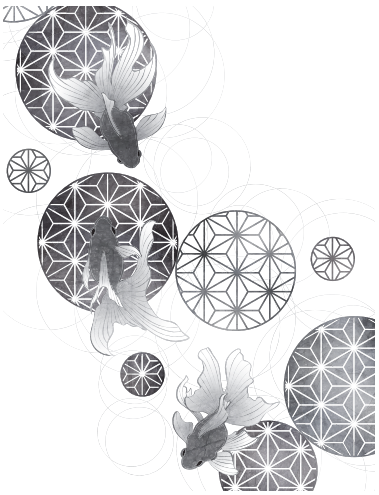
これでは１回の走りで激しく消耗し連続レースに出ることができません。目標達成を早くするためには毎月、場合によっては連週でレースに出る必要があります。そのために必要な考え方走り方をプロのトレーナーに教えてもらいました。

要はぶれない強固な体幹作りと柔らかい股関節です。ゴルフでも飛ばすためには体の軸をしっかりさせて腕は脱力して鞭のように使うという理論と同じです。股関節の可動域をストレッチで上げて脱力して鞭のように脚を動かす。この走り方を実践するようになってから肉離れが起こらなくなりました。そしてマラソン終了後３日は足をひきずる生活をしていた私がマラソン翌日には普通に歩けるようになりました。これは深い！

それからは体幹筋トレやピラティスを積極的に行い患者への指導にも使わせてもらうようになりました。自分自身が身をもって体験したことだからこそ､患者さんへの指導にも自然と力が入ります。

さてその後の目標達成への進行具合なのですが、2024年度は12月沖縄、２月熊本、３月福井、４月青森と４県完走し合計13県まで伸ばしました。遠方から埋めていく方が年を取ってから楽になると考え、2025年度は８月の北海道から始まり、10月岩手、11月岡山、12月山梨、１月鹿児島、２月高知、３月静岡、４月長野と８道県を攻め合計21都道府県まで伸ばすことができました。残り26県。ここまで来ると夢が少しずつ現実味を帯びてきて、ますますワクワクしています。

昨今は地方大会の存続を心配する声もあり、情報収集も重要になりました。今年度は10県制覇を目標に、無事達成できれば31都道府県になります。還暦を目前にして、こんな目標を笑いながら応援してくれる妻に感謝しつつ、一歩一歩、47都道府県制覇に近づいていきたいと思っています。



編集後記

今号から市整会会報の編集担当を前任の宮脇先生から小生に交代しました。宮脇先生にはまだまだ永く編集長をしていただくつもりでしたが、本人も驚く急な医業承継での交代となりました。関西共同印刷所の担当者も交代になりましてメールでのやり取りで会報を作ることになります。コンテンツは小竹会長挨拶、増田同門会会長就任報告、総会資料、会計報告、家族会のアナウンス、新理事就任者の自己紹介、一般投稿と盛りだくさんですが従来の流れを踏襲してゆく予定です。

さて、働く現場を振り返りますと医療DX、顔認証システム、レセコンの刷新、電子カルテ導入、ベースアップ加算、生活習慣病の請求、骨量測定の制限など面倒なことばかりで、気がつけば以前より多忙にもかかわらず診療報酬に反映されない現実があります。くじけず、へこまずやって行くしかないですね。

広報　天野　祐一